

はばたき

2018 冬号 第48号[通巻第159号]
平成30年2月発行[季刊]

編集・発行 / 佐世保中央病院 佐世保市大和町15番地(広報委員会)
TEL 0956-33-7151 FAX 0956-33-8557 E-mail sch@hakujujikai.or.jp
佐世保中央病院ホームページ <http://www.hakujujikai.or.jp/chuo/>



はばたき第48号 ● もくじ

表紙: 年頭挨拶(理事長)

① 年頭挨拶(病院長)

② 海外研修報告会

③ クリーンウォーキング

クリスマスコンサート

④⑤ リハビリテーション部 記事

⑥⑦ 外来診療担当表



2018年理事長年頭あいさつ

社会医療法人財団白十字会
理事長 富永 雅也



皆様、明けましておめでとうございます。健やかに新年をお迎えになったことと思います。

本年は医療・介護の価格決定のための同時改訂の年に当たります。ニュースでは医療はマイナス改定に終わりました。さらに、病床数の多い九州では約1/4の病床削減が計画され、私立病院の3~4割は4~5年の間に病院ではなくなることが予想されています。まさに病院の生き残りをかけた競争時代に入りました。

顧客に選ばれる医療機関しか生き残れない時代の到来をはるか以前から予測してきた我々白十字会は、顧客である患者さん・利用者さんに選ばれる医療・介護提供施設になるため数々の努力を積み重ねて参りました。①高度な急性期医療の提供、②佐世保市で唯一の回復期リハビリ病棟での高い改善率、③自分の病気・目前の手術を理解するための説明支援、④患者さん・家族が納得する退院支援、⑤相談無料の看護外来、⑥病院と家庭との中間施設として必要な機能訓練を行い高い在宅復帰率を継続する3つの老人保健施設、⑦在宅生活を支える効果の高い通所サービス、⑧市内最大規模で在宅医療と在宅生活を支援する訪問看護・介護・リハビリの各ステーション、⑨認知症患者さんと心を繋ぐユマニチュード、などなど大きな成果を挙げているものばかりです。自分の病気がよくわかる、職員が親身になって考えてくれる白十字会が、市民に選ばれ、頼られることは間違いありません。

これからの医療・介護は大きな変革の時代です。変化に対して硬直した組織や病院は対応できずに消えゆく運命にあります。常に柔軟でしなやかな、かつしたたかな対応のできる発想力を持つ我々白十字会は、堂々と市民のために今まで通りの歩みを続けていけばおのずと未来は開けて参ります。地域医療をリードする急性期病院として、さらに価値の高い中央病院になれるよう手を取り合って素晴らしい活動を継続して参りましょう。

皆様にとって、素敵な一年位なるよう祈っております。
今年もよろしくお祈り致します。





2018年病院長年頭あいさつ

佐世保中央病院 病院長 碓 秀樹



皆様、明けましておめでとうございます。

日頃の、佐世保中央病院に対する皆様のご理解、ご支援に対し心から御礼申し上げます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年2017年も、国内外でいろいろな出来事がありました。トランプ米大統領の就任、北朝鮮の繰り返す弾道ミサイル発射の暴挙など、暗いニュースも多い中で、14歳棋士藤井四段の29連勝の新記録や、陸上の桐生選手の100mで9秒98の新記録など明るいニュースでは気持ちが癒されました。佐世保中央病院にとりましての最大のイベントは、10月に受けた日本医療機能評価機構による審査であったと思います。これは5年に一度、中立的・科学的な第三者機関である機構の2日間の審査を受け、患者サービス、患者の権利、医療の質・安全が確保されているか等を確認・改善するためものです。当院では1998年に長崎県で第1号の認定をいただいてから今回5回目の審査になりますが、約1年間かけて細かい所まで見直し改善を図ってまいりました。その中で当院の強み、弱みがしっかりと見えてまいりました。最大の強みは、各部門の連携(協力体制)だと考えています。各診療科同士の連携はもちろん、各部門がお互いに敬意と感謝の気持ちを持って気持ちよく連携し合い、“患者さんのために”との思いで仕事に向き合ってくれている点だと思っております。強みはさらに伸ばし、まだまだたくさんある弱点は可能な限り改善していきたいと思っております。

さて皆様、「**アドバンス・ケア・プランニング(ACP)**」という言葉が聞かれたことがおありですか。世界のどこも経験したことのない超高齢社会に突入していく我が国において、誰しもが可能な限り長く、元気に住み慣れた地域や在宅で生活を維持していきたいと希望されています。また同時に、もし最期の時を迎えたとしたら、ご自身の療養について“こうしたい、こうありたい”との希望を持つ人も増えています。**ACP**とは、意思表示が難しくなる前に、本人が希望する治療内容やケア、過ごしたい場所などを家族や主治医と一緒に事前に話し合い計画しておくことです。病状の変化に応じて繰り返し話し合い、継続的に見直すことが大切で、御家族も加わることで、患者さん本人が意思表示できなくなった時、代わりに意思決定で重要な役割を果たせるようになります。厚生労働省は、終末期の医療に関する指針を初めて改定する方針を固め、今後この**ACP**に積極的に取り組むよう医療従事者らに求めることになると思います。誰しもが迎える“最期のとき”を、自分らしく、どのように迎えるか、まずは是非ご家族皆様で話し合ってみられてはいかがでしょうか。

佐世保中央病院は、今後もさらに地域の先生方との連携を強化し、急性期病院として質の高い、優しい医療を提供できるように、そして患者さん、ご家族から心からの“ありがとう。”の一言がいただけるよう全職員一丸となって努力していきたいと思っております。今後も変わらないご支援をお願いいたします。

2018年が皆様にとりまして、すばらしい一年となりますようにお祈り申し上げます。



海外研修報告会

平成29年9月9日(土)から9月16日(土)の8日間、海外研修が行われ、その報告会が12月27日(水)に開催されました。今回の海外研修は「オーストラリア最新高齢者福祉視察コース」として催され、当法人からは、医師・看護師・作業療法士・言語聴覚士・ケアマネジャーら6名が参加しました。報告会では、ヒト・モノ・システムの3つのカテゴリに分けて、現地の福祉事情や取り組みに関して様々な視点から報告がなされました。

文化や価値観の違いはありますが、研修で得られた発見によって当院の取り組みを再確認し、次の一歩を考える機会となりました。



参加者より

佐世保中央病院 リハビリテーション部
言語聴覚療法課 課長 山口 めぐみ

中福祉中負担の国オーストラリア。キーワードは「自立」。日本とオーストラリアも中福祉中負担、これは負担と給付が中間という意味より、「自立とその支援型」の福祉で、主人公は高齢者自身であることが名分化されています。オーストラリアでは老後に子どもたちが介護をするといった考えはほとんどなく、夫婦又は個人で、高齢者自身がどう生きたいかを決定し、その意思を尊重したサービスを施設もしくは在宅で受けるという考え方でした。

今回の視察では、ナーシングホーム(24時間看護・介護が提供される施設)、ホステル(個室・3食と経度ケアが提供されるケアハウス)、リタイヤメント村(日本の有料老人ホーム)、認知症ケア施設(閉じ込められたと感じさせない・いい気持ちになることを徹底している施設)などを視察しました。

オーストラリアと日本の高齢や介護に関する思想は異なることはあると感じました。しかし、認知症の方に対する取り組みや介護予防活動、持ち上げない介護の実践などの現在の活動にも参考になることも多かったです。



クリーンウォーキングを開催しました

平成29年11月18日(土)、街を清掃しながらさわやかな汗を流すクリーンウォーキングが開催されました。この取り組みは、健康増進と、日頃からお世話になっている地域への恩返しを目的に行っているもので、今年度で8回目になります。参加者は3つのコースに分かれてごみを拾いながら家族・職場仲間と楽しく過ごしました。

今後も様々なかたちで社会貢献活動を続けていきます。



クリスマスコンサートを 開催しました!

年末の恒例行事となっているクリスマスコンサートを平成29年12月16日(土)に開催しました。今回は、当院の患者さんによるハーモニカ演奏と、当院職員によるバンド「Swing Whites」による演奏、そして糖尿病内科の徳満医師によるジャグリングを披露していただきました。参加者それぞれの素敵なパフォーマンスで、会場は演奏に聴き入ったり、歓声に包まれました。不自由な入院生活のなかで、少しでも患者さんの癒しになれたのであれば幸いです。



はじめに

平成29年3月に、白十字会リハビリスタッフのコミュニケーションスキルの向上を目的に、佐世保・福岡から各2名リハビリスタッフを選出し、笑いのスキルを身につけるために、HumanCX 殿村流『笑伝塾』1日研修へ、佐世保中央病院からPT鬼崎、OT朝里が参加してきました！！

患者さん自身に病気や障害に対して、今以上に理解を深めてもらいリハビリの必要性や重要性を感じることで、リハビリ以外の時間も自主トレーニングの実践につながるような指導ができるコミュニケーションスキルの向上を目指しています。

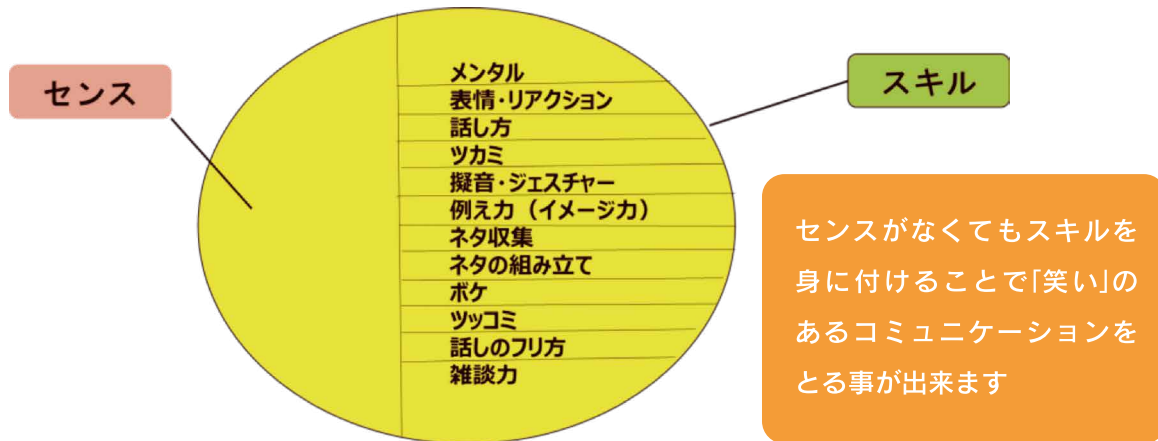
今回、参加して学んできた内容や『笑いのスキル』のスタッフへの伝達方法などを紹介させていただきます。

笑伝塾とは

- ・元吉本興業所属の芸人、殿村政明さんが塾長
- ・芸人引退後ハウスメーカーの営業マンとして活躍
- ・その後、起業家として活動するも失敗と挫折を繰り返し、ビジネスマンにこそ笑いのあるコミュニケーションが重要であると気づく
- ・10年の歳月をかけて笑いのメカニズムを科学し、一般人が習得できる教育プログラムを開発



<笑いには『センス』と『スキル』の2つの要素があります>



内容

- ・スキルを学ぶ:笑いのメンタル、表情・話し方、リアクション、擬音、ジェスチャー、etc...
- ・コミュニケーションを邪魔するものは、自分の照れとプライドであり、結果、「心の壁」を作ってしまう。
- ・従来の丁寧なやり取りでは深い人間関係を築くことはできない。
→常識を知った上であえて崩す=笑い 『大人の上質な気配り』
- ・リアクションを取ることで、相手へ聞いているということを伝える。
リアクションを取る=親切 リアクションを取らない=不親切などなど。

白十字会リハビリ部での「笑いのスキル」育成内容

対象者

- ・ 佐世保中央病院・耀光リハビリテーション病院・白十字病院 リハビリスタッフ
- ・ 各施設の接遇に関するグループメンバーや意欲の高いスタッフを中心に伝達・指導

スケジュール

- ・ 上半期(平成29年5月～9月) 下半期(平成29年12月～3月)
- ・ 30分×8回(2回/月)

内容

- 1回目:メンタル 2回目:表情・リアクション 3回目:ジェスチャー
4回目:擬音 5回目:ジェスチャー+擬音 6回目:ボケ
7回目:ツッコミ 8回目:例え力



※平成29年度中に佐世保中央病院、耀光リハビリテーション病院、白十字病院で約50名のスタッフを育成予定。

参加してみた感想

研修会に参加するまでは、私たちはコミュニケーション能力が高い方だと思っていましたが、いざ研修を受けてみると従来のコミュニケーションスキルの一歩先のコミュニケーションスキルを用いた内容で、私たちがまだ行っていない新しいコミュニケーションだと感じました。

こちらが緊張しては相手にも緊張が伝わり深い人間関係を構築することは難しい。あえて崩す事が「**大人の上質な気配り**」であるということが衝撃でした。丁寧さも重要ですが、いかに早く相手との信頼関係を築けるかも大事になると教わりました。病院では在院日数が短縮され、これまで以上に効率のよいリハビリや医療を提供するためには、患者さんにこの人なら信頼できる、任せることができるだけ早く思ってもらえるコミュニケーションをとることが重要だと思います。今回の研修ではそのことが理解でき大変有意義なものになりました。現在、白十字会リハビリ部において伝達講習を行い「**笑いのコミュニケーションスキル**」の普及を行っています。これまで以上に笑顔で溢れるリハビリテーション部になるように頑張っていきたいと思えます。



佐世保中央病院 外来診療担当表 1 ◎は新患のみ、○は新患・再診、□は再診のみ

平成30年1月

科名	役職	氏名	月		火		水		木		金	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
呼吸器	診療部長	副島 佳文										
	副部長	小林 翼		◎								
内分泌	非常勤	宇佐 俊郎										
	〃	安部 恵代										
腎臓内科	医	上条 将史		◎								
	〃	久原 拓哉										
神経内科	非常勤	林 和歌										
	副部長	竹尾 剛										
リウマチ 膠原病 センター	非常勤	中村 龍文										
	臨床研修・研究 統括部長	植木 幸孝										
リウマチ 膠原病 センター	センター長	寺田 馨										
	部長	後幸 俊										
糖尿病 センター	医員	辻 貞香										
	医員	来留島 草太										
糖尿病 センター	非常勤	一瀬 邦弘										
	〃	岩本 直樹										
糖尿病 センター	センター長	松本 一成										
	医員	明島 淳也										
糖尿病 センター	〃	徳満 純一										
	非常勤	魚谷 茂雄										
消化器 内視鏡 センター	非常勤	古賀 萌奈美										
	理事	富永 雅也										
消化器 内視鏡 センター	診療部長	木下 昇										
	部長	小田 英俊										
消化器 内視鏡 センター	医員	加茂 泰広										
	〃	吉村 映美										
放射線科	非常勤	高木 裕子										
	〃	草場 麻里子										
放射線科	副部長	竹島 史直										
	非常勤	和田 光代										
放射線科	医員	担当 医										
	医員	上条 将史										
人工透析 センター	非常勤	久原 拓哉										
	非常勤	林 和歌										

佐世保中央病院 外来診療担当表2

平成30年1月

◎は新患のみ、○は新患・再診、□は再診のみ

科名	役職	氏名	月		火		水		木		金	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
専門外来	インターフェロン	院長 木下 昇		○								
	ベースメーカー	副院長 木崎 嘉久		○								
		副診療部長 中尾 功二		第2,4週								
	乳腺	院長 碓 秀樹						○				
		診療部長 佐々木 伸文		○								○
	ストーマ	院長 草場 隆史										
		勤 菅村 洋治						○				
	禁煙	勤 菅村 洋治										
		勤 中路 俊										
	ステントグラフト	勤 中路 俊										
		勤 中路 俊										
	下肢静脈瘤	担当医 担当 医										
担当医 上条 将史												
腹膜透析	員 上条 将史											
	勤 近藤 英明											
睡眠時無呼吸外来	勤 近藤 英明											
	勤 近藤 英明											
認知症疾患医療センター	長 井手 芳彦		○					○			□	
	勤 國崎 忠臣		○					○				
緩和医療	勤 國崎 忠臣		○					○				
	勤 國崎 忠臣		○					○				
健康増進センター	長 中尾 治彦		○					○			○	
	健康増進部長 寺園 敏昭		○					○			○	
一般健診	長 寺園 敏昭		○					○			○	
	長 川内 奈津美		○					○			○	
健診産婦人科	特別顧問 石丸 忠之		○					○			○	
	特別顧問 石丸 忠之		○					○			○	
乳がん検診	特別顧問 石丸 忠之		○					○			○	
	特別顧問 石丸 忠之		○					○			○	

【受付時間】 8:30～11:30 13:30～16:30

【診療時間】 9:00～12:00 14:00～17:00

【予約専用番号】 すべての診療科において時間帯予約をとっております。

受診希望の方は、事前にご連絡いただき予約をお取りください。

☎️《再診／紹介状のない方》

☎️《紹介状のある方》

0800-7000-888 (コールセンター)

0120-33-8293 (地域医療連携センター)

- ・救急部は24時間体制です。
- ・医師の出張等により休診する場合がございます。

土曜日は、休日診療体制とさせていただきます。

